

慶應義塾大学総合政策学部では、問題発見解決型の教育・研究を実践してきました。そのため、問題を発見・分析する力、固定観念にとらわれない柔軟なものの見方・洞察力・政策提言能力が必要です。【問題】の後に次の資料があります。

資料1 は、「世界経済フォーラム(World Economic Forum)」が、毎年おおむね1月下旬にスイス・ダボスで開催されることが慣例となっている年次総会（通称、ダボス会議）で発表した『グローバルリスク報告書』の2011年度版を抜粋したものです。

同報告書は、2011年から10年間のグローバルリスク展望の分析から、知見を提供しています。

資料2 の図表は、問題(1)～(3)を解く上で必要となる諸々の図表です。

資料3 は、北極海の最小海水面積の推移を示した図表です。

これらの資料を独自の視点で分析し、以下の設問に答えなさい。

【問題】

- (1) 資料1を読み、2019年の現時点で、2011年時点で予測された10のリスク予測、すなわち、①経済格差、②グローバル・ガバナンスの破綻、③マクロ経済の不均衡、④不正経済、⑤水、食料、エネルギー、⑥サイバー・セキュリティ問題、⑦人口動態の課題、⑧資源安全保障の問題、⑨グローバル化の抑制、⑩大量破壊兵器、について、予測から8年経った今、それらの予測の成否を判断する上で、その判断の根拠となる図表を資料2から選びなさい。根拠となる図表がない場合は、図表についての解答欄は空白にすること。なお、1つの予測につき根拠となる図表は複数でも構わず、また1つの図表が複数の予測の根拠となっても構わない。

<解答例>

10のリスク	根拠となる図表
① 地球温暖化が進行する	(X), (Y), (Z)

注：(X),(Y),(Z)は資料
にありません。

- (2) 資料1で提示された①経済格差、⑥サイバー・セキュリティ問題、⑦人口動態の課題という3つのリスクのうちどれか一つを選び、選んだリスクについて資料2のデータを用いながら、予測の成否を含めて400字程度で論じなさい。
- (3) 資料1で提示された10のリスク以外に、現在の世界でリスクとなっている事例を挙げて、200字程度でその概要を記しなさい。ただし、環境問題、自然災害に関するリスクは除く。
- (4) 資料3の図表を見て、北極海の最小海水面積が推移している理由と、その推移によって生じる様々な変化、リスク、好機をより多面的に400字程度で論じなさい。

資料 1

世界はもはや新たに大きな衝撃を受けられる状況にない。金融危機が世界経済の回復力を低下させている一方で、地政学的な緊張が高まり、社会問題も深刻化している。今や政府も社会も、世界規模の課題に対処する能力が以前よりも低下していると言わざるを得まい。それでも、本報告書が示すように、私たちはグローバルリスクに関するかつてないほどの大きな懸念、各システムが互いにつながりを増していることによる急速な影響拡大の可能性、そして破滅的な結果という危険性に直面している。

本報告書 2011 年度版は、今後 10 年間のグローバルリスク展望の分析から得た知見を提供する。本報告書には、世界経済フォーラム¹のグローバルリスク調査に回答した多様な利害関係者および地域にわたる 580 人の専門家の洞察が活かされている。調査では、37 のグローバルリスクについて 2010 年から 2020 年までのリスクの発生の可能性、リスクの影響、リスクの相互連関性に関する意識を測定し、上位 10 位のリスクを提示した。

A. 2 つの分野横断的なグローバルリスク

①**経済格差**（国内および国家間の貧富の格差と所得格差）と②**グローバル・ガバナンスの破綻**（脆弱または不適當な制度、機関、協定またはネットワーク）の二つは影響力と相互連関性の面から極めてリスクが大きいとされる。双方共に、その他のグローバルリスクの展開に影響を与え、それらのリスクに効果的に対処しようとする能力を抑止するものである。

グローバル化は一世代に当たる期間、持続的な経済成長をもたらした。相互の関連性と相互の依存性がかつてないほどの強まりを見せながら、世界は縮小され、新しい形へと変化を遂げた。しかし、グローバル化による恩恵は平等に行き渡っていないように見受けられる。努力の果実を極めて少数のものだけが享受しているように見受けられるからだ。新しい勝者たちの成長によって国家間の経済力はバランスを取り戻しているものの、国内の経済格差は広がっていることが明らかになっている。

国内レベル、国際レベル双方での経済格差と経済的公平さの問題は重要性を増している。政治的には、ナショナリズムやポピュリズムの復活のほかにも社会的分裂の兆候がある。また、持続可能かつ包括的な発展をどのように促進するかについて、国家間で意見の相違が大きくなっている。

¹ 世界経済フォーラムは、グローバルかつ地域的な経済問題に取り組むために、政治、経済、学術等の各分野における指導者層の交流促進を目的として 1971 年に発足した独立・非営利団体である（世界経済フォーラム『第 6 回 グローバルリスク報告書 2011 年度版』）。

B. 焦点が当てられた3つの重要なリスク

本年度の分析では、2つの分野横断的なグローバルリスクとは別に、3つの重要なリスクが明らかになった。

③「マクロ経済の不均衡」関連：マクロ経済の不均衡と為替変動、財政危機と資産価格の崩壊といった一連の経済的リスクは、新興経済諸国で増進する富および影響力と、先進諸国に積み上がった莫大な額の債務との間の緊張関係に起因している。国内および国家間において貯蓄と貿易の不均衡が次第に不安定さを増しているだけでなく、未積立債務が長期間にわたり過度な圧力を財政状況にかけている。これらの不均衡を是正する手段のひとつは世界規模で協調的な行動を取ることだが、各国の利害の対立を鑑みるとこれは容易ではない。

④「不正経済」関連：国の脆弱性、不正取引、組織犯罪、不正行為を含むリスクに関する分析が行われた。ネットワーク化された世界では、ガバナンスの破綻および経済格差が不正行為の蔓延を引き起こすきっかけをもたらす。2009年の全世界の不正取引額は1兆3000億米ドルと推計されており、その額は増え続けている。これらのリスクは、正当な経済活動への莫大なコストをもたらすと同時に、国の衰退を招き、国家発展の機会を脅かし、法規を弱体化させ、国々を貧困と不安定の連鎖へ陥れる。非合法品の需要側と供給側双方での国際協力が急務である。

⑤「水、食料、エネルギー」関連：世界人口の著しい増加と一層の繁栄により、資源に対して持続不可能なほどの圧力がかかっている。水、食料、エネルギーに対する需要は今後20年で30%から50%の間で増加すると予想され、しかも経済格差があるために、生産や消費に絡む諸問題が場当たり的に対処されがちとなり、その結果、持続性が犠牲となってしまう。資源不足は、社会不安や政情不安、地政学的な対立および修復不可能な環境破壊を引き起こす可能性がある。相互関連性を考慮せずに水、食料、エネルギー関連リスクの一部のみに焦点を置いた戦略は、意図せぬ甚大な影響を招く危険性を伴う。

C. 注視すべき5つのリスク

さらに、5つのリスクが「注視すべきリスク」として指定されている。これは調査の回答者がそれらのリスクを不安定要素が高く、信頼度が低いと評価したことに加え、専門家が深刻で予想外の、または想定以上の影響を及ぼす可能性があるとしたものである。

- ・ 発生が拡大しているサイバー盗難から、可能性が未知の本格的サイバー戦争に至るまでの

⑥サイバー・セキュリティ問題

- ・ 先進諸国に財政的な負担を与え、新興経済諸国の社会安定への重大な危険性を生み出す、

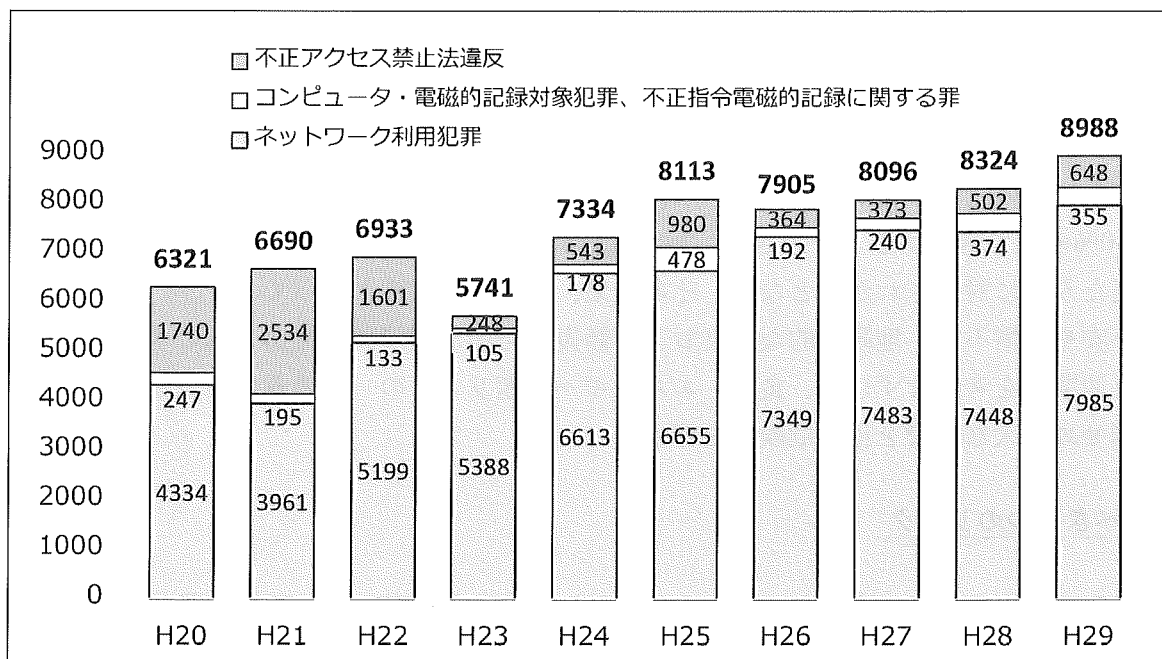
⑦人口動態の課題

- 供給が需要に間に合わなくなった場合、長期にわたる極端な変動と継続的な上昇をエネルギー価格と商品価格にもたらす⑧資源安全保障の問題
- 新興経済諸国までもが開放的な国際システムを守るためにリーダーシップを担わなかった場合に、経済格差に対するポピュリスト的(一般大衆受けする)施策が取られることによって生じる⑨グローバル化の抑制
- ⑩大量破壊兵器、特に国家間の新たな核の拡散の可能性

参考文献（一部編集・改変）：世界経済フォーラム『第6回 グローバルリスク報告書 2011年度版』 p.0, pp.4-5, pp.20-23, p.37, p.42.

資料 2

(A)サイバー犯罪に関する検挙件数の推移



出所：日本データ通信「サイバー空間における警察活動」
[\(https://www.dekyo.or.jp/info/2018/07/security/post-2639/\)](https://www.dekyo.or.jp/info/2018/07/security/post-2639/).

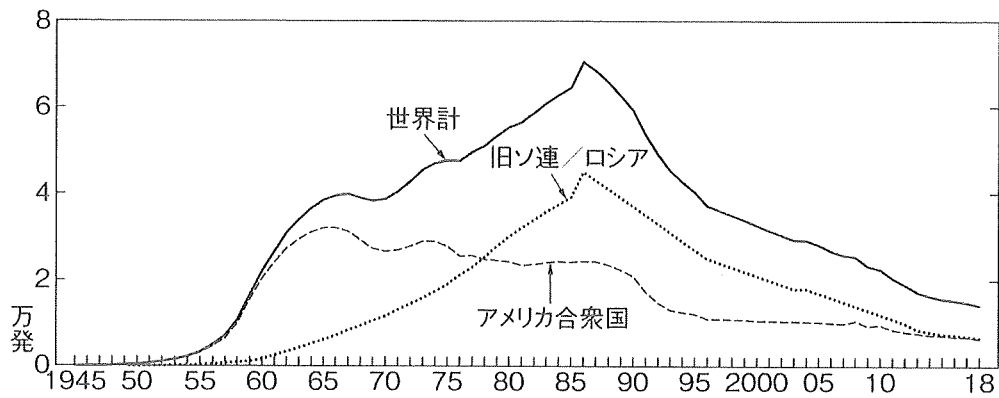
(B) 世界の水資源利用 (2014年)

国名	年間降水総量		水資源量		年間取水量		部門別取水量			生活用水 使用量 L/人/日	利用できる人の割合(1)	
	計	1人当たり	計	1人当たり	計	1人当たり	生活	工業	農業		安全な水	衛生施設
インド	10億m ³	m ³	10億m ³	m ³	10億m ³	m ³	%	%	%	L/人/日	%	%
中国	3 560	2 751	1 911	1 477	761	588	7	2	90	113	94	40
日本	6 192	4 454	2 840	2 043	554	399	12	23	65	133	96	77
ナイジェリア	630	4 919	430	3 355	82	640	19	14	67	333	100	100
イギリス	1 062	6 018	286	1 622	13	74	31	15	54	63	69	29
アメリカ	297	4 571	147	2 261	11	169	58	32	9	269	100	99
ブラジル	7 030	22 126	3 069	9 659	478	1 504	14	46	40	577	99	100
オーストラリア	14 995	73 428	8 647	42 343	75	367	23	17	60	231	98	83
世界	4 134	176 106	492	20 959	20	852	22	13	66	514	100	100
	108 962	14 929	54 738	7 500	3 909	536	18	22	60	264	91	68

(1)2015

出所：『2018 データブック オブ・ザ・ワールド』二宮書店、2018年、p. 7.

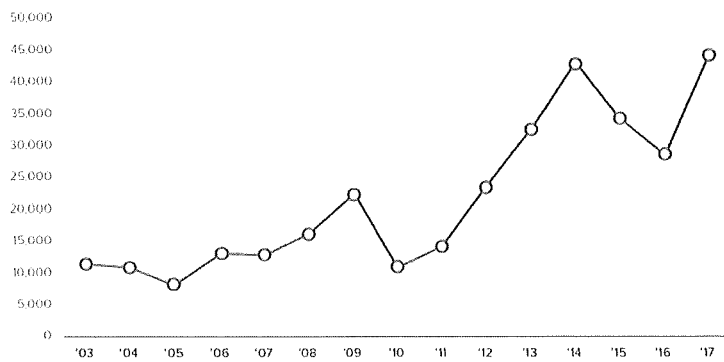
(C) 核弾頭保有数の推移



米国科学誌 “Bulletin of the Atomic Scientists” などにより作成。

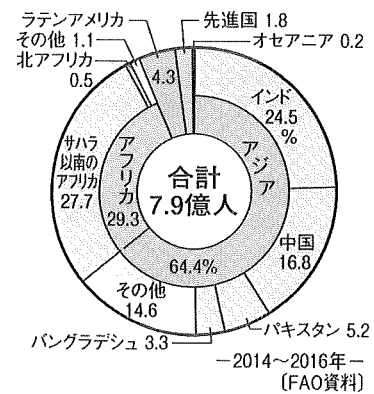
出所：矢野恒太記念会編集・発行『世界国勢図会 2018/19』2018年、p.456.

(D) 1日あたりの新たな難民・避難民発生数 (2003-17)



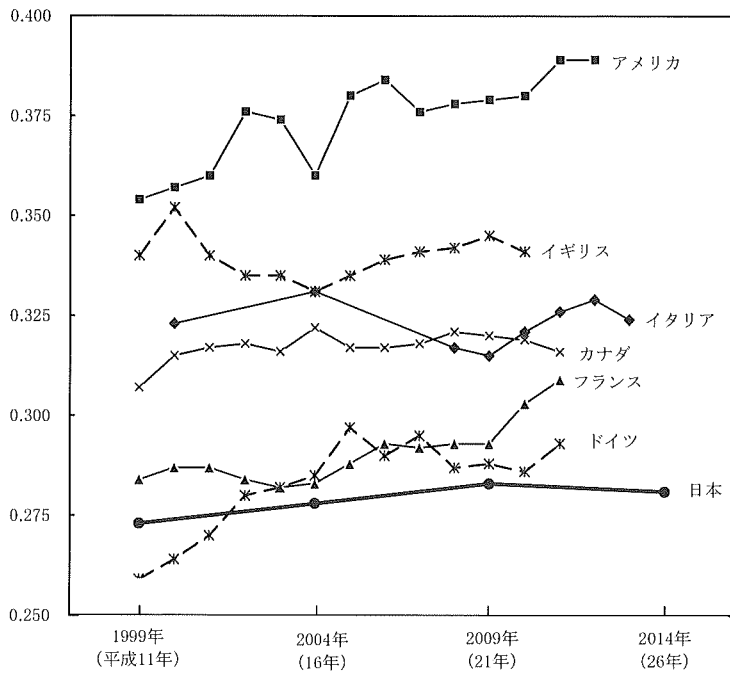
出所：UNHCR, *Global Trends: Forced Displacement in 2017*, 2017, p.7.

(E) 栄養不足人口の地域別割合



出所：帝国書院編集部編『新詳地理資料Complete 2018』帝国書院、2018年、p.128.

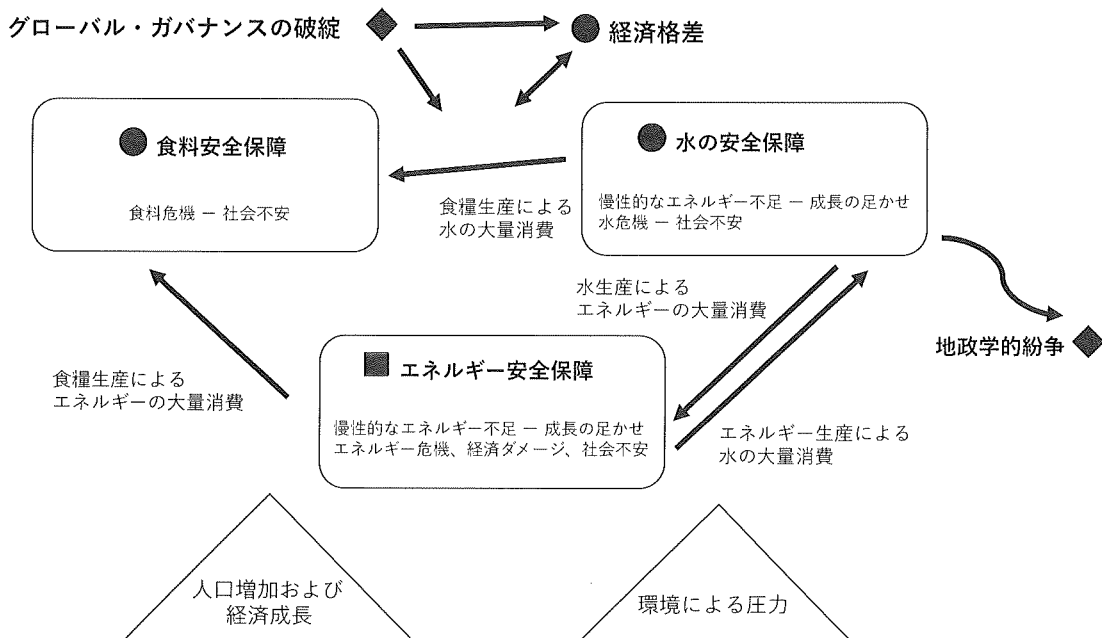
(F) 日本と主要国のジニ係数の推移



国名 (調査年)	ジニ係数
アメリカ (2012年)	0.389
イギリス (2010年)	0.341
イタリア (2013年)	0.324
カナダ (2011年)	0.316
フランス (2011年)	0.309
ドイツ (2011年)	0.293
日本 (2014年)	0.281

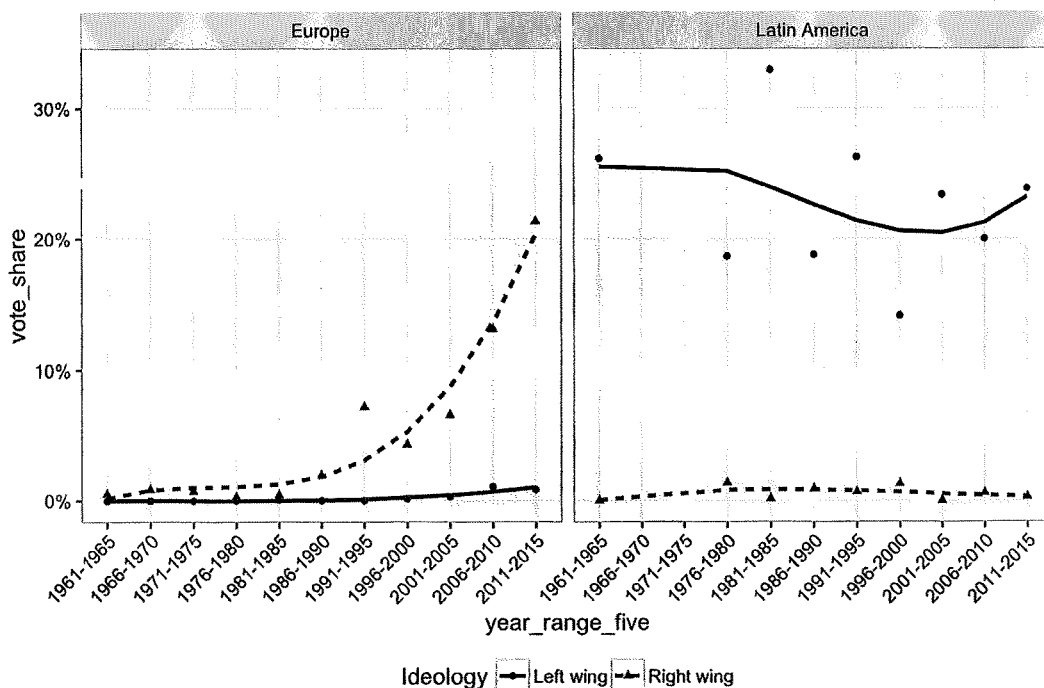
出所：総務省統計局『平成26年全国消費実態調査 所得分布等に関する結果 結果の概要』平成28年10月31日。

(G) 水・食料・エネルギーの関連



出所：世界経済フォーラム『第6回 グローバルリスク報告書 2011年度版』p.30をもとに作成。

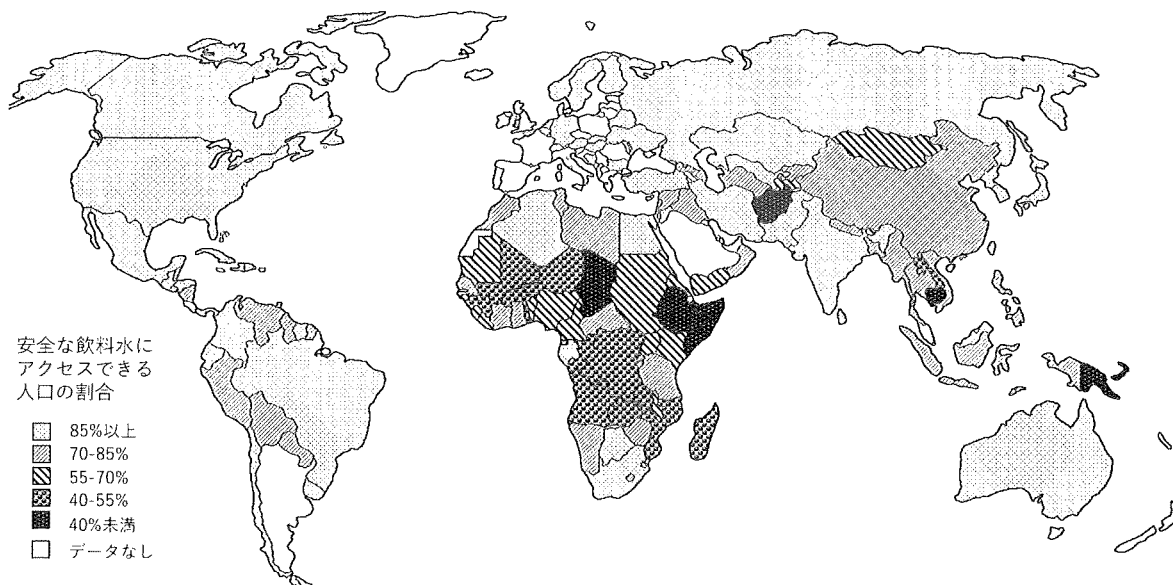
(H) 欧米とラテンアメリカのポピュリズムの比較



注：vote_shareは得票率、Ideologyは政党のイデオロギー

出所：Dani Rodrik, "Populism and the economics of globalization," *Journal of International Business Policy*, 2018.

(I) 安全な飲料水にアクセスできる人口割合

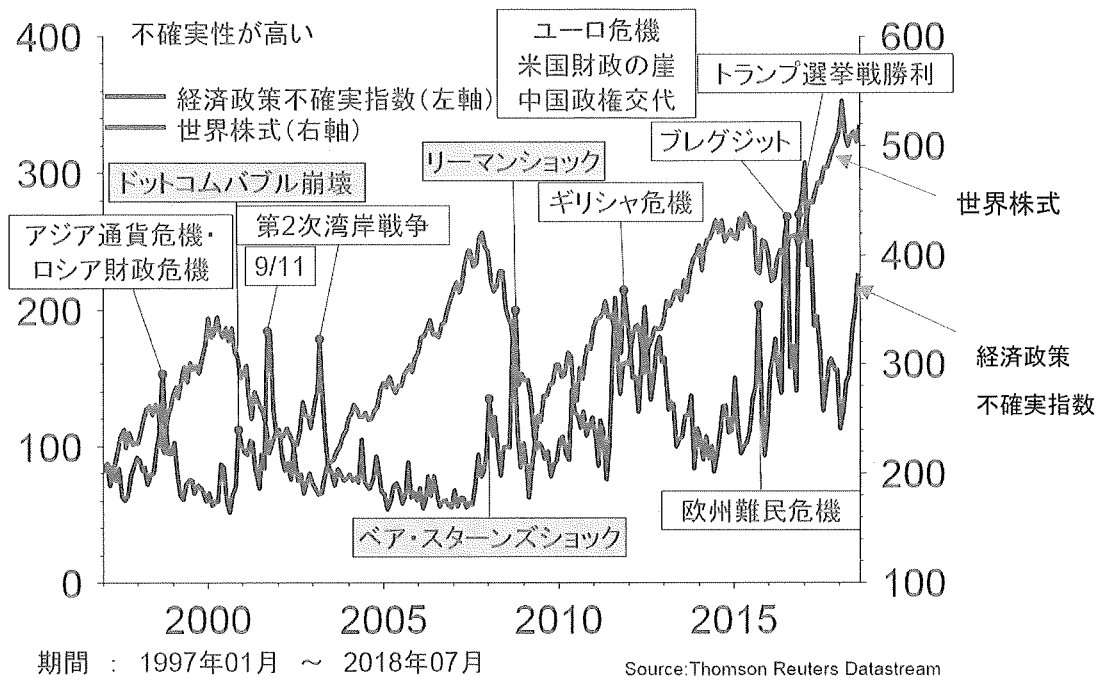


出所：reliefweb ウェブサイト (<https://reliefweb.int/map/world/world-access-safe-drinking-water>) をもとに作成.

(J) 世界株式市場と経済政策不確実指数 (グローバル)

経済政策不確実指数

世界株式

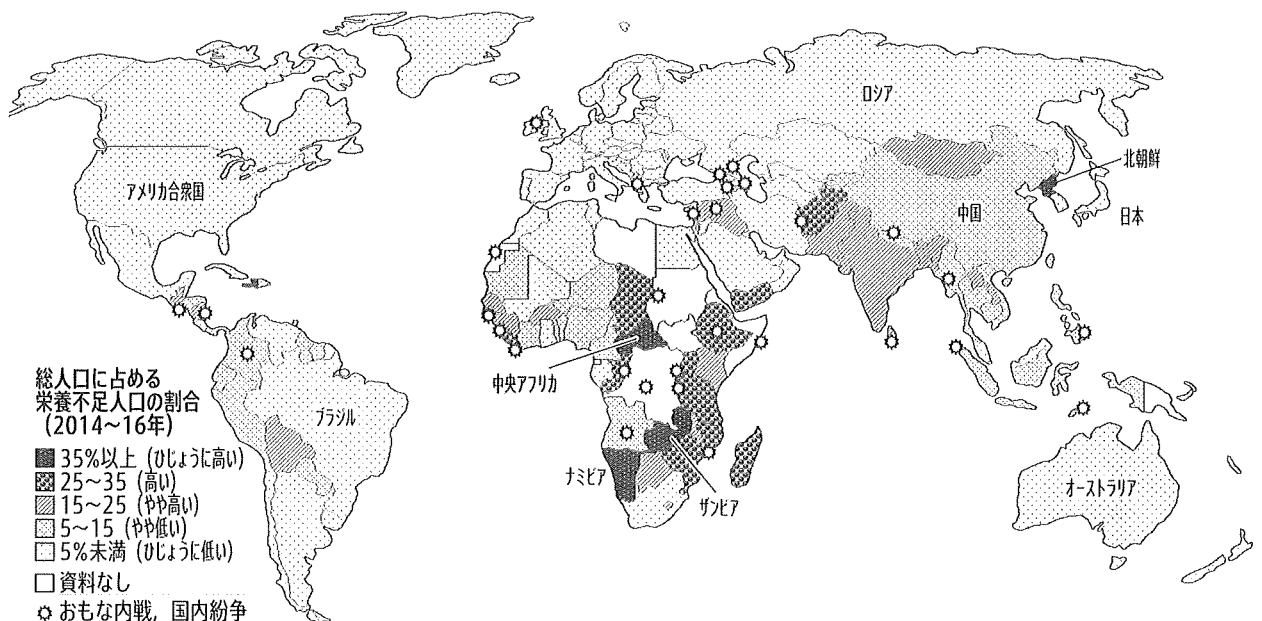


注：1997年を100とする。

出所：クラブ・フィデリティ ウェブサイト

(<https://www.fidelity.co.jp/clubfidelity/articles/market/21.html>) .

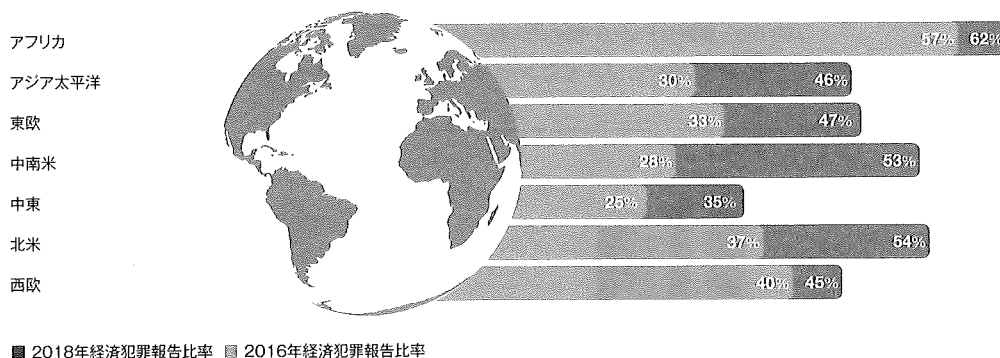
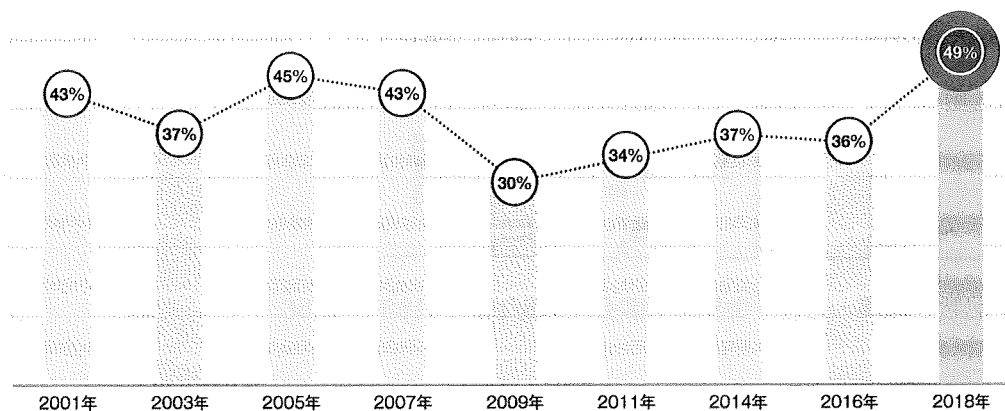
(K) 食料需給の偏り



出所：帝国書院編集部編『新詳地理資料Complete 2018』帝国書院、2018年、p.128をもとに作成。

(L) 経済犯罪報告比率

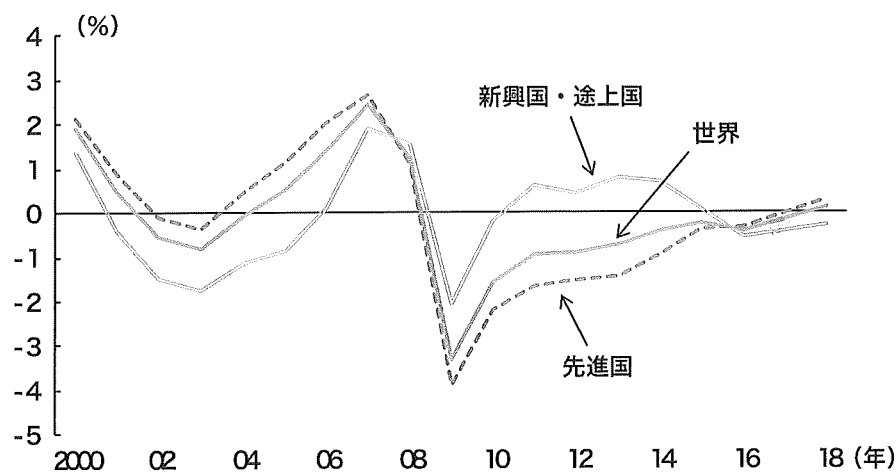
注 「過去24ヶ月以内に不正や経済犯罪の被害を受けましたか？」という問いに対し、「ある」と答えた組織の比率。



出所： PwC Japanグループ『経済犯罪実態調査2018 日本語版』2018年、p.7.

(M) 世界経済のGDPギャップ

注 GDPギャップとは、実際のGDPと潜在GDPとの差を表すもの。



(備考) 1. 世界銀行“Global Economic Prospects, January 2018”より作成。
2. 2018年値は推計値。

出所：内閣府 政策統括官(経済財政分析担当)『世界経済の潮流 2018年 I』2018年、p. 63を加工。

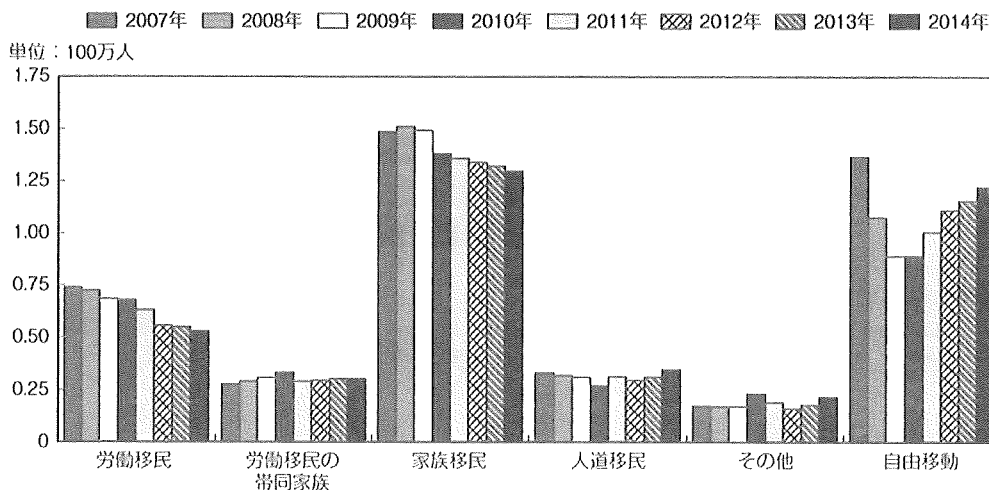
(N)世界の核弾頭保有状況（2018年）（単位 発）（概数）

	実戦配備分		予備分 (実戦配備 可能なもの)	総計 (備番・退役 分を含む)	核実験 実施年 (初年)
	戦略核	戦術核			
ロシア……………	1 600 ¹⁾	…	2 750 ²⁾	6 850	1949
アメリカ合衆国・	1 600 ³⁾	150	2 050 ⁴⁾	6 450	1945
フランス……………	280	…	10	300	1960
中国…………… ⁵⁾	… ⁵⁾	…	270	270	1964
イギリス……………	120	…	95 ⁶⁾	215	1952
イスラエル……………	—	…	80 ⁷⁾	80 ⁸⁾	…
パキスタン……………	—	…	130~140	130~140	1998
インド……………	—	…	120~130	120~130	1974
北朝鮮……………	—	…	… ⁹⁾	10~20 ¹⁰⁾	2006
世界計……………	~3 600	~150	~5 525	~14 450	

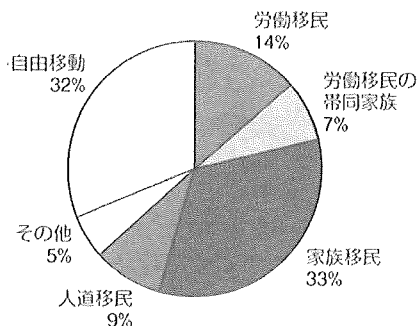
出所：矢野恒太記念会編集・発行『世界国勢図会 2018/19』2018年、p.456.

(O) OECD加盟国へのカテゴリー別永住移民流入数（2007-2014年）

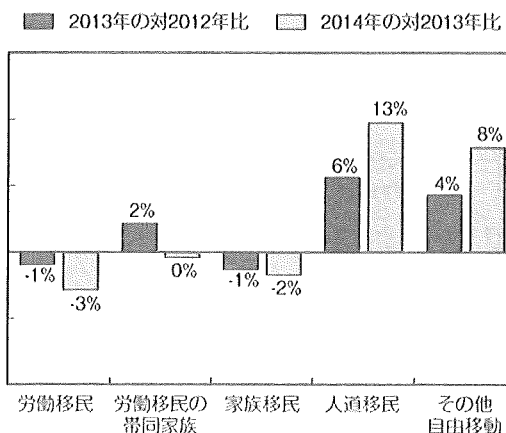
パネルA 移民カテゴリー別の流入数の変化



パネルB 全流入数に占めるカテゴリー別割合（2014年）

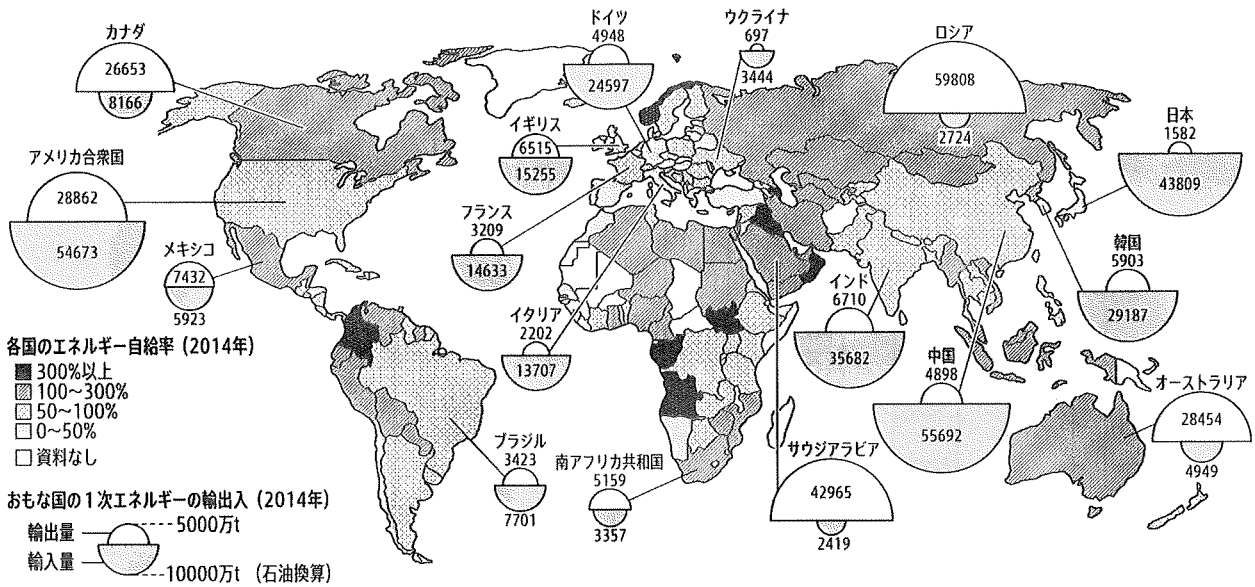


パネルC 全流入数に占めるカテゴリー別割合の増減



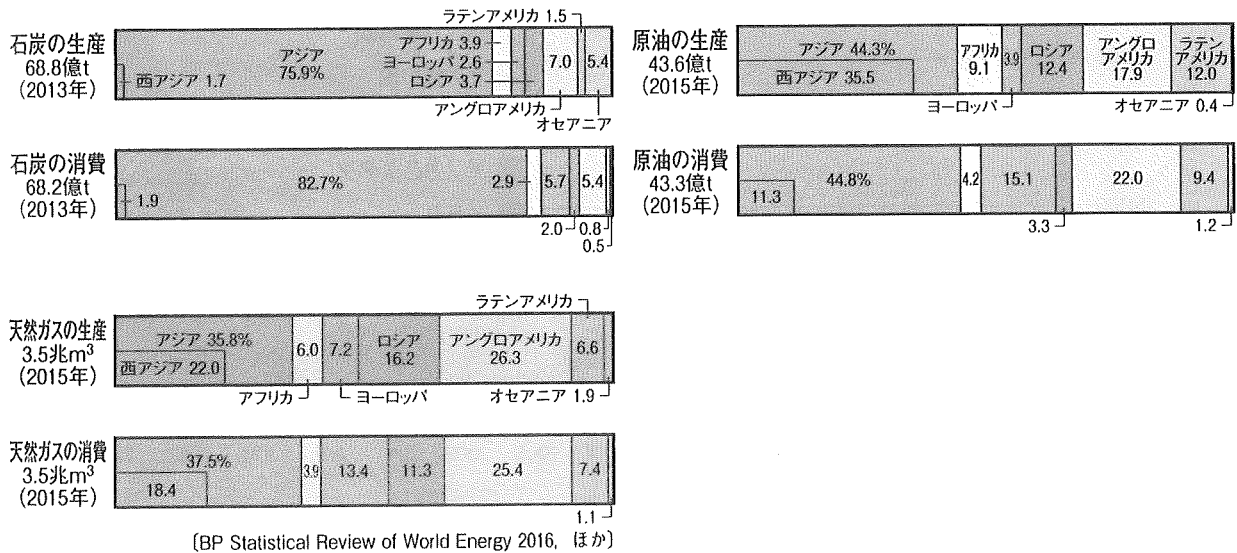
出所：経済協力開発機構編著（徳永優子訳）『世界の移民政策 OECD国際移民アウトック(2016年度版)』、明石書店、p.25.

(P) 世界のエネルギー自給率と一次エネルギーの輸出



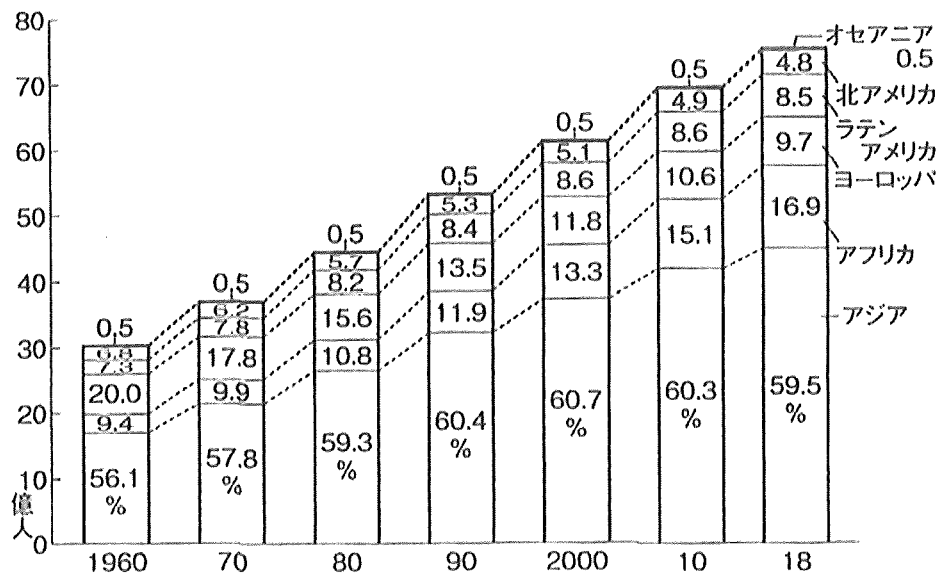
出所：帝国書院編集部編『新詳地理資料Complete 2018』帝国書院、2018年、p.131をもとに作成。

(Q) 石炭・原油・天然ガスの地域別の生産と消費



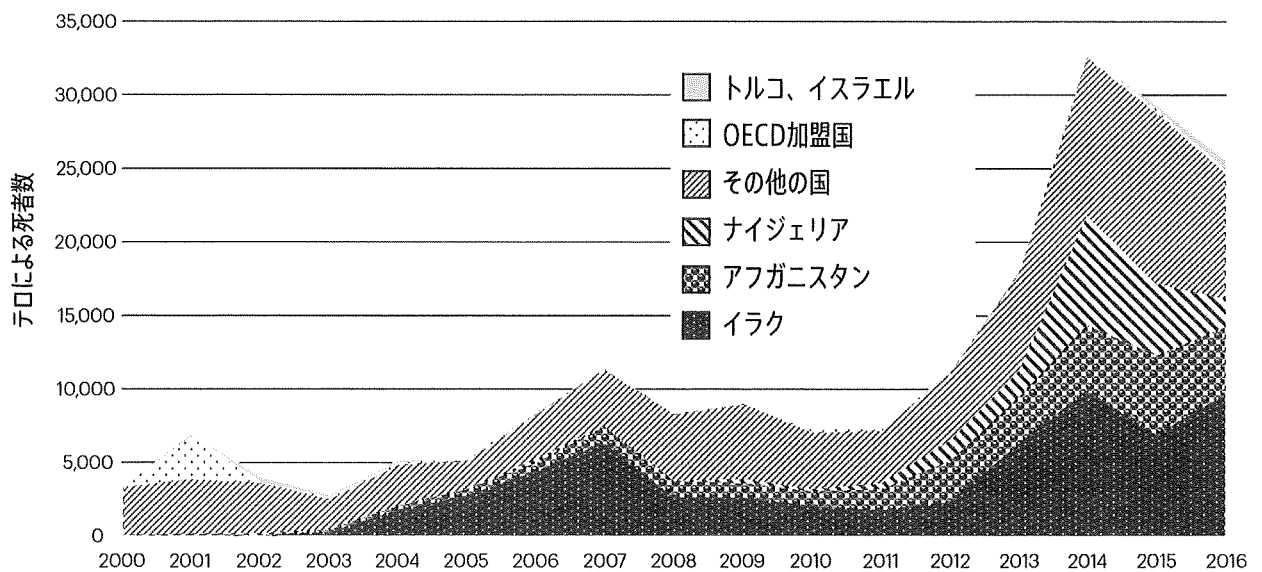
出所：帝国書院編集部編『新詳地理資料Complete 2018』帝国書院、2018年、p.131。

(R) 世界人口の地域別割合



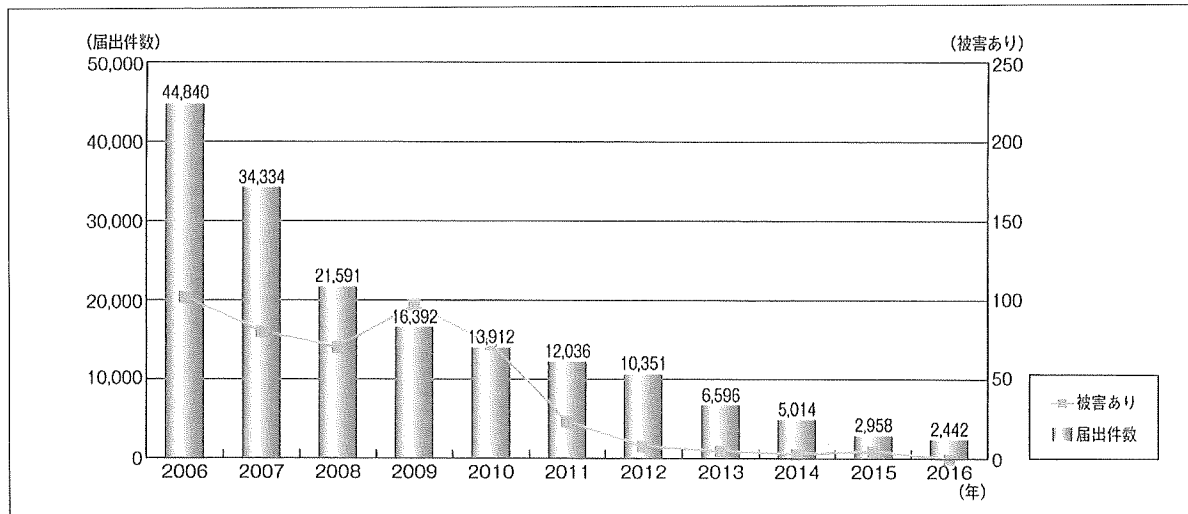
出所：矢野恒太記念会編集・発行『世界国勢図会 2018/19』2018年、p.35.

(S) 地域別のテロによる死者数 (2000-2016)



出所：Institute for Economics & Peace, *Global Terrorism Index 2017*, 2017, p.15をもとに作成.

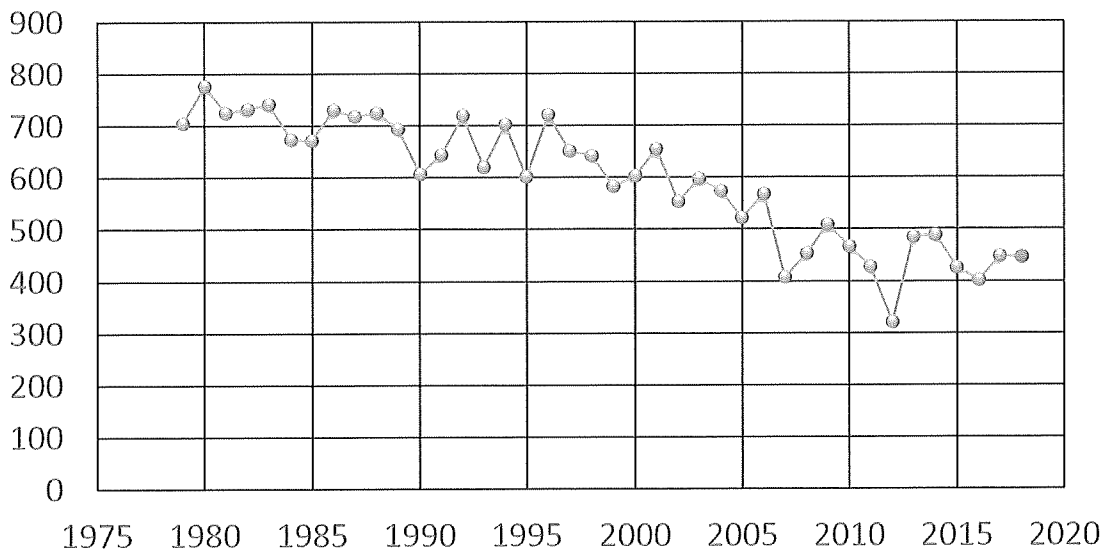
(T) ウイルス届出件数の推移 (2006~16年)



出所：情報処理推進機構（他）『情報セキュリティ白書 2017』情報処理推進機構、2017年、p.202.

資料3

北極海の最小海氷面積(万平方キロメートル)



出所：JAXA第一宇宙技術部門「地球が見える2018年」
<https://www.eorc.jaxa.jp/earthview/2018/tp180925.html> .

注：資料2の(I), (K), (P)は、Blank map political world territories
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Blank_map_political_world_territories.pngを用いて作成.

2019年度 総合政策学部 一般入学試験問題 訂正

教科・科目	ページ	設問	誤	→	正
小論文	15	資料2	図表のタイトル (T)ウィルス届出件数の推移(2016～18年)	→	(T)ウィルス届出件数の推移(2006～16年)

訂正済みですが、実際の試験では上記の訂正がありました。